

まえがき

幼少期教育の重要性が叫ばれて久しく、遊び、生活、環境などを重視した幼児教育・保育の取り組みがなされてきています。そのなかにあつて、モンテッソーリ教育が広がり深まっています。

モンテッソーリは、子どもの自立・自由・個の確立・子どもへの援助を重視しています。

これらの考えをよく見ると、モンテッソーリの教育思想の底には、子どもの尊重が一貫して流れていることがわかります。モンテッソーリが、子どもの自立・自由・個の確立・子どもへの援助を提唱するのも、そのことによつて子どもが全人的に成長し、一人ひとりが尊い存在として未来を切り開いて生き抜いてくれるのだ、という希望をもち続けていたからなのです。

ここに掲載した論考は、京都モンテッソーリ教師養成コース編になる『自由を子どもに』誌に掲載されたものと同コースでの講義から、モンテッソーリの子ども

も尊重の思想を扱ったものを選んで構成したものです。

ここに採り上げた論考は、時の流れを経ているものもありますが、モンテッソーリの教育思想は変わらないとの思いから再録したものです。再録した論考に若干の修正・加筆をしましたが、原著の意図はできるだけ残したいとの思いから、あえて大部分を原著のままにしました。そのため、くり返しが多くなりましたし、表記も一定していません。また、考察に不十分な点もありますが、それらは今後の課題として残りました。

最後になりましたが、このような形でまとめさせていただいたのも、京都モンテッソーリ教師養成コースを開設され、多くの保育者を世に送り出してこられた赤羽恵子先生が転載をご快諾くださったことによるのです。赤羽先生のご厚情に改めて感謝いたします。

なお、このたびもまた、快く出版をお引き受けくださった法律文化社社長の田麿純子さんと細かいところにもまでご配慮いただいた編集部の徳田真紀さんに深く感謝いたします。

二〇一九年四月

片山忠次